

神さまを讃える

2014年4月3日

アシェル・イントレータ

私たちの人生の目的の一つは、神さまを讃えることです。イエシュア（イエスさま）の捧げた2つの有名な祈りは、天の父が讃えられるように願うことから始まっています。「天におられる私たちの父よ、あなたの御名があがめられますように」（マタイ 6:10）、「父よ、あなたの子があなたの栄光を現わすために、子の栄光を現わしてください」（ヨハネ 17:1）

神を讃えたいという思いがあるとき、同時に私たち自身の動機が清められます。人生のあらゆる状況で、神を讃える機会が与えられていると、理解しましょう。イエシュアの弟子たちは主に、なぜ盲目の人が盲目に生まれてきたのかと訊ねました（ヨハネ 9）、また別の時には、ラザロを癒すために、なぜもっと早く来なかったのかとも訊ねました（ヨハネ 11）。私たちはよく、なぜ数々の悪いことが起こるのかと検証し、あらゆる状況で、だれが正しいか間違っているかと詮索しがちです。

しかしイエシュアは、彼らの期待通りには答えられませんでした。実際には主は、彼らが間違った質問をしていると言われ、彼らがどのように状況を理解するかを変えてしまいました。主にとって焦点は、ただ「神がどのように栄光を現せるか」だったのです。

ヨハネ 9:3 – イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現われるためです。」

ヨハネ 11:4 – この病気は死で終わるだけのものではなく、神の栄光のためのものです。神の子がそれによって栄光を受けるためです。

正しく応答する

私たちもまた無駄な質問を良くします。神さまを讃えることを求めないで、よく私たち自身の間で議論しているのです。神さまは主権者で全能な方です。どのような状況でも、答えを用意しておられます。私たちは、神さまを讃えるような方法で、応答すべきなのです。

神を讃えることを求めることは、私たちの内面的な姿勢を変えます。それは、私たちはもう、人間的な説明に捕われたり、自分自身に栄光を求めなくて良くなります。仕返しや自己の正

当化が必要なくなるのです。私たちは、解決策をもたらすような大局的な変革を求めようになります。

ペテロは自分の人生や他の弟子たちの人生について、多くの質問をしました。それに直接的に答えるのではなく、イエシュアは彼に、死にいたる瞬間まで常に、神に従い、主を讃えるよう説きました。

ヨハネ 21:19 – ペテロがどのような死に方をして、神の栄光を現わすかを示して、言われたことであった。

私たちも、どのような状況にあっても、神の栄光を現す方法で応答していきましょう。人からの栄光を求めるのではなく、神さまからの賞賛を求めていき(ヨハネ 5:44)、私たち自身が、人生における神さまからの、より深い目的に合わせていけるように。

2分で見るとリバイブイスラエルの歴史とビジョン

アシエルの短い個人的な証しと、神さまが、使徒の働きに記されている使徒たちが受けた元来の召命が、私たちの時代に息づいていることを見るために、リバイブイスラエルに与えたビジョンについて。[こちら](#)をクリック。

過ぎ越しの祭り

エディー・サントロ

「さて、過越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。」
(ヨハネ 13:1)

それは過ぎ越しの祭りの前日にエルサレムで起こりました。そのユダヤの都は過ぎ越しの祭りの食事の準備をする多くの男女で溢れていました。何世代にもわたって彼らの祖先がそうしたように、エジプトでの奴隷として囚われの身から解放されたことの記憶を呼び覚まし、神様の忠実さを讃えていました。

神はただ御使いを遣わしただけではなく、その愛するイスラエルのため、神さまご自身が来られ、手を差し伸べられたのです。神さまは神のしもべ、モーセに力を与えられました。疫病が起こり、初子が死に、400年の間彼らを縛っていた奴隷制度の鉄扉が開かれたのです。その日イスラエルはエジプトから永遠に出発し、栄光の雲に従い、紅海をわたり、彼らの神の愛と恵みを現す、選ばれた国となるための旅を始めたのです。

そして今、長い年月が過ぎたその過ぎ越しの時、群衆の中に、人とは違う1人の人がいました。世の罪を取り去る仔羊がその民にやってきたのです。彼はその弟子たちを回りに集め、彼にとって弟子たちと過ごす最後の過ぎ越しの祭りとなる、この過ぎ越しの祭りをともに過ごすよう、弟子たちを集めました。今回は、神の栄光が雲の中にあった訳ではなく、インマヌエル（神がともにおられる）である方にありました。

現された愛

そして、真実の愛を永遠に現すようになるこの瞬間に、この王の中の王である方が、その上着を脱ぎ、手ぬぐいを腰にまとい、そのしもべの足を洗うために、彼らの前に跪いたのです。

その瞬間、天が震え、その後に初めて、この謙虚なしもべとして選ばれた方がだれであったかが、完全に理解されたのです。そしてそのやり方がモデルとなりました。しもべとして仕えることが偉大で、謙虚な姿勢にこそ権威があるということ。

十字架は彼の前に立てられていました。その後の何時間かは、主が弟子たちの前でどのように生きたかを確認する時となりました。愛の偉大さは、他人のために自分の命を捧げることで現わされます。主はその地位を譲り、自らの意思で御自身を、永遠の犠牲として捧げるのです。そしてその犠牲によって人は解放され、一つの国が神のものとして確立されるのです。

この過ぎ越しの祭りの間、私たちはこのような偉大な解放を憶え、私たちの心に火を着けようではありませんか、--この素晴らしい神さまからの愛をもって、捕われている全ての人々が解放されるのを見るために。

シャヴオット（五旬節）の日をマークしておきましょう

私たちの第4回年次シャヴオット（ペンテコステ）徹夜祈禱会にご参加ください。2014年6月2日夜（イスラエル時間＝日本では明けて3日）から12時間、ワーシップ、執り成し、聖

霊が注がれ溢れることを信じ、待ち望みます。今回も内容をライブストリーミングでお伝えします。お見逃しのないように。詳細は追ってお知らせします。

ヤッドハシュモナについての係争

先週読んでいない方のため、悲しむべき、他ではあり得ないお知らせがあります。ヤッドハシュモナ（メシアニック・ジュー村）は、聖書の真理に立った結果、事業を辞めさせられました。